

## 巻頭言

本誌「生存圏研究」は2006年に第1号が、その後、毎年度1冊ずつ発刊され、今回第20号の発刊となりました。生存圏研究所の理念を発信する重要な出版物として継続的に発刊されている雑誌です。英文誌“Sustainable Humanosphere”と統合されており、日本語・英語どちらでも寄稿していただけます。

生存圏研究所は、2004年の発足以来20年にわたり研究活動を続けてきました。本研究所が推進する生存圏科学は、人間が生きていく上で必須の空間を「生存圏」として捉え、その現状を正確に診断して評価し、生起する様々な問題に対して包括的な視点に立った解決策の提示を目指します。我々は持続発展可能な社会の構築に向け、分野横断的な新しい学問領域の開拓に取り組んでいます。また文部科学省から「生存圏科学の共同利用・共同研究拠点」の認定を受けており、多くの研究設備、観測データや貴重な木材標本から構成される生存圏データベースを共同利用に供し、国内外との共同研究を推進してきました。

研究所が発足した当時、「生存圏」は目新しい言葉でした。特に英語名称である“Sustainable Humanosphere”は造語です。環境やエネルギーや資源をひっくるめ、社会全体の持続的な発展が必要であると考え、それを端的に表す名前を生み出しました。国連による「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals; 略称 SDGs)」の制定は2015年ですから、我々は、約10年先んじて走り始めていたこととなります。

我々の研究成果は、最近では科学研究費の全ての研究分野区分に分布するほど広がってきました。しかし生存圏科学にふさわしい新分野開拓への期待はさらに高まっています。そのため令和4年度から「生存圏未来開拓研究センター」を発足させました。新しい研究センターでは、内部に複数の研究ユニットを設けて研究に専念させることで、新興領域・融合領域の研究、学際領域の開拓を狙っていきます。

生存圏研究所では、これからも持続発展可能な社会の構築に向けて取り組んでいきます。その一助として本誌「生存圏研究 (Sustainable Humanosphere)」が広く講読され、研究者のみならず一般の方々にも手に取っていただけるようになることを期待しています。また、本誌はJ-STAGEに収録されることになりました。来年度からは科研費等による研究論文等のオープンアクセス化が制度になっていくようですが、それが本誌への追い風になっていくことを期待しております。

令和6年10月31日

生存圏研究所所長

山本 衛